

校長及び教員としての資質の向上に関する指標

教員等育成指標(栄養教諭)

キャリア・ライフステージ 年齢 教職経験年数	採用時 (～22歳)	基礎力の形成期 (23歳～27歳) 1～5年	実践力の向上期 (28歳～32歳) 6～10年	実践力の充実期 (33歳～37歳) 11～15年	実践力の発展期 (38歳～47歳) 16～25年	総合力の発揮期 (48歳～) 26年～	
栄養教諭							
目指す教員像	学習指導、児童生徒理解、生徒指導、学級経営など、教育活動に関する基礎を理解し、栄養教諭の専門領域に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。	初任施設における学校勤務等の経験を通じて、栄養教諭の専門領域に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。	複数の施設勤務の経験を通じて、栄養教諭としての基盤を確立し、自らの実践を振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。	施設運営の中堅として、施設全体を見渡す視野を持ち、若手教職員の模範となりながら、職務遂行能力を更に高めている。	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教職員の資質向上を支援しながら、施設内外に広く目を向け、関係者と連携して施設運営を牽引している。	栄養教諭としてのこれまでの実践を基に、管理職の方針を踏まえ、総合力を発揮しながら円滑な施設運営に貢献している。	
岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修)		初任者研修	2年目研修	3年目研修	教職経験者 5年研修 (6年目)	中堅教諭等 資質向上研修	
1 教員としての素養	<ul style="list-style-type: none"> 使命感、責任感、倫理観 教育的愛情 豊かな人間性 コミュニケーション力 自ら学び続ける意欲・探究心 課題に立ち向かう力 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての使命や責任を自覚し、教育への情熱と誇りや高い倫理観を持っている。 ・児童生徒に対する愛情を持ち、一人一人の児童生徒と真剣に向き合っている。 ・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。 ・様々な背景・価値観を持つ人々と対話を通して情報共有し、相互に考えを伝え深め合いながら、合意形成を図り、課題を解決している。 ・自律的に学び探求する姿勢を持ち、教育の情報化を含む時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を生涯にわたって高めている。 ・心身共に健康で様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って様々な課題に取り組んでいる。 					
2 栄養教諭の専門領域における職務	<ul style="list-style-type: none"> 栄養管理 衛生管理 給食の時間等における食に関する指導 個別的な相談指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の専門領域における職務の重要性を理解している。 ・学校給食の栄養管理は学校給食実施基準に基づき、適切に行うことを理解している。 ・学校給食の衛生管理は学校給食衛生管理基準に基づき、適切に行うことを理解している。 ・学校給食と関連付けて食に関する指導を行う重要性について理解している。 ・児童生徒の実態把握に基づき、個別的な相談指導を行う重要性について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食生活や地域の実態と課題を把握し、学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立の作成により、適切に栄養管理を行っている。 ・調理場・受配校の施設・設備、食品の取扱い、調理作業、衛生管理体制等の実態把握に努め、学校給食衛生管理基準に基づき、適切に対処している。 ・児童生徒の食生活の実態と課題を把握し、食に関する指導の全体計画や年間指導計画等に位置付けて、給食の時間等における食に関する指導を行っている。 ・食に関する健康課題を有する児童生徒の実態を把握するとともに、必要に応じて同僚の助言を受けながら、適切に対処している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒の健康状態及び生活活動の実態並びに地域の実情等を踏まえ、学校給食実施基準に基づき、適切に栄養管理を行っている。 ・学校給食施設・設備等について必要な措置を講じ、学級担任等が行う衛生管理に係る指導について、学校給食衛生管理基準に基づき、適切に対処している。 ・年間指導計画等に基づいて、学級担任等と連携しながら、資料提供し児童生徒に指導するなど、給食の時間等における食に関する指導を行っている。 ・食に関する健康課題を有する児童生徒の実態を把握するとともに、学級担任等と連携しながら、組織的な対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や地域の実情等を把握し、食事状況調査等の状況把握を踏まえ、学校給食実施基準に基づき、適切に栄養管理を行っている。 ・関係機関等と連携を図り、学校給食衛生管理基準に基づき、学校給食施設・設備等や受配校における衛生管理上の課題を改善している。 ・発達段階に応じた食に関する指導を行うとともに、指導の結果、児童生徒の行動がどのように変容したか観察し、事後の指導に生かしている。 ・食に関する健康課題を有する児童生徒について、関係する教職員と共通理解を図り、保護者や関係機関等と連携して個別的な相談指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食実施基準に基づき、適切に栄養管理を行うとともに、教職員に指導・助言を行うなど連携を図りながら、栄養管理の内容を指導に生かしている。 ・学校給食衛生管理基準に基づき、適切に衛生管理を行うとともに、教職員に指導・助言を行うなど連携を図りながら、衛生管理の内容を指導に生かしている。 ・食に関する課題を把握し、発達段階に応じた食に関する指導を行うとともに、教科等の学習内容と学校給食を関連付けるなど体系的に指導している。 ・食に関する健康課題を有する児童生徒について、個に応じた指導計画を作成し、組織的に対応するとともに、記録、評価、改善を適切に行っている。 ・個別的な相談指導を充実させるとともに、これまで培ってきた実践や経験を後進に伝え、指導的役割を果たしている。 	
3 生徒指導力	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の集団指導 いじめ等の問題行動・不登校等への対応 教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。 ・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。 ・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常にカウンセリングマインドを持ち、日常の児童生徒との人間的な触れ合いや問題行動への毅然とした態度などを通じて信頼関係を築き、児童生徒理解を深めている。 ・一人一人の児童生徒の人格を尊重し、学校生活のあらゆる場や機会を捉え、健全な成長を促し、児童生徒に自ら自己実現を図るための自己指導能力を育成している。 ・学校教育目標を踏まえて、学級・部活動など担当する児童生徒の集団指導の方針を立てながら、個に応じた指導を実践している。 ・教育活動のあらゆる場面でいじめ等の問題行動・不登校等の兆候を発見する視点を持ち、児童生徒一人一人と向き合っている。 ・学校の教育相談体制を理解し、必要に応じて助言を受けながら、随時的・計画的に教育相談の機能を教育活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭など様々な立場の同僚と連携して、集団全体の動きと児童生徒個々の状況を把握しながら児童生徒の集団指導を実践している。 ・校内での情報共有に努め、若手教員のスキル向上を支援しながらいじめ等の問題行動・不登校等への学校の対応力向上に取り組んでいる。 ・実践を通してカウンセリング技法を身に付けておくとともに、スクールカウンセラーや養護教諭と積極的な情報共有に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚の児童生徒の集団指導力向上を支援しながら、主体性を持った集団を育てている。 ・関係機関との連携や家庭への支援等を図り、いじめ等の問題行動・不登校等の解決のための指導計画策定や実際の指導に率先して取り組んでいる。 ・スクールカウンセラーや養護教諭など同僚と指導方針を共有し、教育相談を分担するなど組織的な教育相談を牽引している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の集団指導のスキルを同僚に対して積極的に開示し、学校の集団指導力の向上に貢献している。 ・学校全体の動きに気を配り、同僚の課題解決を支援するなどいじめ等の問題行動・不登校等の解決に向けた環境整備に貢献している。 ・保護者等からの相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを持ち、同僚の育成に努めている。 	
4 マネジメント力	<ul style="list-style-type: none"> 学校及び共同調理場組織としての連携・協働 危機管理 関係者等との連携・協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が組織として教育活動に取り組むこと及び関係者との連携・協働の重要性について理解している。 ・学校安全、学校保健、食育に関する基本的な知識を持ち、学校事故等に対する危機管理の重要性を認識している。 ・学校が、家庭や地域、関係機関と連携・協働することの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚・関係者と積極的に連携・協働し、それぞれの強みを発揮しながら、学校内外の教育資源(人・もの・資金・情報・時間等)を効果的に活用して、学校経営計画のもと、評価・改善の視点を持って業務を推進している。 ・校内及び共同調理場内における自己の役割を理解し、必要に応じて同僚の助言を受けながら業務を推進している。 ・常に児童生徒の安全・保健に配慮し、日頃から同僚との情報の報・連・相に努めている。 ・学級や部活動等で担当する児童生徒の保護者と積極的なコミュニケーションに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌等内の動きを見通し、同僚と協働して業務を推進しながら、分掌等運営に必要なスキルを向上させている。 ・危機を予測した未然防止や危機を察知した際の迅速な対応を意識して行動している。 ・保護者や地域など、関係者と良好な関係を築き、教育活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分掌の経験に基づいて学校及び共同調理場全体の動きを見通し、建設的な提言を生かしながら業務を推進している。 ・児童生徒集団に目を配り、危機を察知した際は、率先して迅速な行動をとっている。 ・関係者との良好な関係を生かして、積極的に情報収集している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚の業務を支援するとともに、学校及び共同調理場内外の動きを考慮しながら各種業務を推進している。 ・危機対応に際しては、関係機関と適切に連携をとり主体的に行動している。 ・関係者と連携した教育活動の際、積極的に調整役を担っている。 	
5 復興教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> 「いわての復興教育」が本県の教育の柱の一つであることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災津波の教訓を継承し、本県の地域・未来を担う人材を育成するなど、「いわての復興教育」を推進している。 ・復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解し、具体的な教育活動を実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の実情・課題に応じて、地域や関係機関と積極的に関わりながら教育活動を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関との連絡・調整を行い、学校内外の関係者と協働しながら教育活動を牽引している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案、校内体制の構築など、教育活動全体を通じた復興教育の具体的な推進に貢献している。 		
6 キャリア教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の考え方や重要性を理解している。 ・社会や経済の状況に関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いわてのキャリア教育指針」を理解し、児童生徒に総合生活力と人生設計力を育成するなど、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進している。 ・本県のキャリア教育の考え方や学校の実情などを理解し、小・中・高や社会との接続を意識しながら教育活動を実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら教育活動を展開している。 ・児童生徒の多様な進路選択に的確に対応するとともに、児童生徒の実態に応じたライフデザイン能力の育成を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、企業、関係機関との連絡・調整を行い、校内外の関係者と協働しながら取組を牽引している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のキャリア教育全体計画の立案、校内体制の構築など、社会の変化に応じたキャリア教育の具体的な推進に貢献している。 		
7 特別支援教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けた特別支援教育の理念や指導方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて特別支援教育推進プラン」を理解し、障がいに関する知識や配慮等についての理解を深め、個に応じた指導を通じて、「共に学び、共に育つ教育」を推進している。 ・児童生徒一人一人の特性や学習状況の理解に努め、指導内容や指導方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に基づいた指導を行い、客観的な視点による評価を行いながら指導を改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の充実の必要性を理解し、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が組織的に行う校内支援体制の整備を牽引している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の充実や教職員の専門性の向上など、児童生徒のニーズに応える教育に貢献している。 	

(※ 校長の指標は教諭と同じであるため表示を省略)